

心理科便り No.7



2023年7月

日々の業務お疲れ様です。毎日暑いですね。私の地元、北海道の函館周辺では、七夕の日に子どもたちが「竹に短冊七夕まつり♪」と歌いながら近所を歩き、お菓子をもらってまわる風習がありました。そのため、この時期になるとうまい棒とか、ラムネの小袋とかがスーパーにもたくさん並んでいました。なつかしい！

それでは、今月の心理科便りも、休憩の時などにお目通しいただけると嬉しいです。

コラム「心理学豆知識」

No.7～高次脳機能障害とは？～

「高次脳機能障害」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。脳卒中や脳外傷などで脳にダメージを負ったあと、注意力や記憶力、視覚認知、実行機能など、様々な脳の機能に影響が出ることがあります（もちろん、後遺症がないという方もおられます）。

一般臨床でみる高次脳機能障害といえば、例えば左半球損傷では失語や失行、右半球損傷であれば半側空間無視、病態失認が挙げられるほか、健忘（記憶障害）や遂行機能の障害、失認も珍しくはないように思います。

認知機能の低下、言葉が話せない、人の顔が認識できない、物の使い方が分からない…あるいは、病前・事故前とは性格が変わったような感じがする、など、後遺症の種類や程度、回復過程はその人によって違います。

高次脳機能障害は、今でこそ急性期にきちんと本人・家族への説明がなされることが基本になっていますが、意識レベルがかなり回復しないとわからない症状が多いことも事実です。「命が助かった後の生活」を考えられるようになるタイミングや、実際に「以前の生活に戻った」タイミングで後遺症がわかり、気を落とされる方が増えるのは想像に難くないでしょう。このタイミングを逃さずに相談や支援が受けられることはとても重要だと思います。

心理士は神経心理学的検査を担ったり、病院によっては認知リハビリテーションやカウンセリング、家族支援を行ったりすることがあります。

当院にも稀に高次脳機能障害の患者さんがみえることがありますが、なかなか知名度は高くありません。興味のある方は是非お声がけください。

書籍もありませぬ



心理科の本棚



『にげて さがして』 作：ヨシタケシンスケ（赤ちゃんとママ社）

今月は、ヨシタケシンスケさんの絵本、『にげて さがして』をご紹介します。さて、にげることは恥ずかしいのでしょうか？

おとなになると、脅威に出会っても、我慢を覚えて、耐えて、時には戦って…。勝つか負けるかの世界しかないように思ってしまうかもしれませんが、実は他にもたくさんの選択肢があるんですね。患者さんと話をしても、「そりゃああなた、にげるほうがお得ですよ」なんて言いたくなることもたくさんあります。ただ、にげるとして、どこににげるかというのも肝心なのです。

にげて、さがして、自分を大切にしてくれる人や場所を見つけてほしい、そんな思いが詰まった一冊だと思います。

心理科便りでは、コラムで取り上げてほしいテーマを募集しています。これについて知りたい!と思っていることがあれば、ぜひお知らせください。職員の皆さんのメンタルヘルス相談も随時受け付けています。

ご予約・お問い合わせはこちらへお寄せください。➡ mail: fujiken-sinri@fujisiro-hp.info 内線:3400



↑メールはこちら